

シビック・イノベーション拠点スナバが生み出す
インパクトの最大化に向けての考察
ー中間支援組織の視点から分析する
地域イノベーション創出の成功要因と今後の可能性ー

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科
ソーシャル・イノベーション専攻
2024年3月修了
三枝 大祐

【 要 旨 】

本研究は、長野県塩尻市にあるシビック・イノベーション拠点スナバが構築してきたナレッジや成功要因を体系化することで、新たな価値の創出と社会的インパクトの最大化を実現しうる事業提案を目的とする。そのために、スナバが生み出してきた成果やインパクトを明らかにし、それを可能にした要因を分析しながら、シビック・イノベーションが創発されるプロセスと中間支援組織に必要とされる要素を分析した。分析にあたって、内発的地域イノベーション・エコシステムの概念を先行研究として調査設計を行い、半構造的インタビューを実施した。インタビュー結果と併せて、筆者が立ち上げから現在まで運営に携わる中で得た体験知を含めた、必要要素やプロセスのモデル化を行った。

シビック・イノベーションとは「地域に住むあるいは関わる人が、生活者視点で感じた違和感や欲求を基軸に、自分自身が生きたい地域に向けて実施するアクションや、そこから生まれる持続的な事業」とスナバの運営チームが定義した言葉である。シビック・イノベーションの創発を通じて、地域課題などに取り組もうとする他地域にとって、本研究が貢献できれば幸いである。